

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらら		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)
○従業員評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 1月 31日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職が複数在籍していること	・作業療法士、言語聴覚士が顧問であり、保育士、看護師など様々な職種の職員が複数在籍しているので多角的に児童さんの様子を見ることができ、活動の幅も広げることができています。	・今後さらに職員が増やしていく予定です。
2	・各児童が様々な経験を積めること	・各職員のこれまでの経験を活かして、普段できないような経験をきららで積むことができるように活動を計画しています。	・各児童さんの成長に合わせてさらに様々な経験を積んでいけるように計画中です。
3	・午前中は同年代での関わりができ、午後は異年齢での関わりができること	・午前中は主に0～5歳の児童さんが、午後は3～18歳の児童さんが通所しており、午前中、午後でそれぞれ特色の異なる活動ができます。	・今後は各曜日ですさらに集団活動が充実できるように職員体制を整えていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・女性職員しかいないこと	・現在女性職員しか在籍していないため、高学年になるにつれ男子児童さんとの関わりで物足りなく感じてしまう部分があるかもしれません。	・今後は職員募集にも力を入れていきます。
2	・保護者会をなかなか開催できていないこと	・コロナ渦以降なかなか保護者さんを集めての保護者会が開催できていません。	・職員の様々な資格を活かして保護者向け研修を開催できるように調整していきます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	きらら
------	-----

公表日 2026年 3月 15日

利用児童数 12

回収数 11

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11			・ちょうどいいと思う。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11			・多くて助かります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11			・きれい。 ・明るい雰囲気。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11			・様々な活動があり楽しそう。 ・いろんな活動をしてくれて、子供も楽しんでいます。	
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9			2	・近隣の地域開放をしている園へ訪問し遊ぶ機会を設けています。 ・夏～秋にかけて行うことが多いです。	
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11				・丁寧でした。	
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2		1		・年に1回は保護者向けの研修・講座を開催できるように計画しています。 ・今年4月に開催予定です。
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10	1			・写真や動画でわかりやすく伝えてもらっています。	
16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10			1		・最低でも半年に1回の保護者面談、そのほか要望に合わせて専門職との面談が可能ですのでいつでもご相談ください。

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	2		2	・保護者向け研修・講座を開催し、保護者交流ができる場を設ける予定です。 ・今年は4月に開催予定です。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11				・連絡が取りやすいです。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11				・連絡が取りやすいです。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10			1	・迅速です。 ・ホームページのほかインスタグラムでも活動の様子を載せていますのでご覧ください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11				・されている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	2			・説明されました。 ・マニュアルのもと支援にあたっています。ご不明点などありましたらお知らせください。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			3	・児童向けの避難訓練は年に2回開催しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11				・安心しきっている様子。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11				・すごく楽しみにしている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				・しています。

事業所における自己評価結果

事業所名	きらら			公表日	2026年 3月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		個別学習をするスペース、集団活動をするスペース、余暇を過ごすスペースを分けて活動を行っています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		通所児童の人数に合わせて系列の児童デイサービスから職員を借りるなど、職員の人員を調整しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		通所児童数の増加に合わせ玄関をより快適に使用できるように広くしました。 通所時の身支度、荷物整理も動線を考え荷物置きスペースをより玄関近くに配置しなおしました。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎朝の清掃を徹底しています。感染症が蔓延しやすい時期には次亜塩素酸水を使用した加湿器を設置しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウンや休息をとれるように個室を用意しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		職員会議を通し、PDCAサイクルに基づき目標、計画、アセスメントなど見直し、計画の実行、評価をしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に1回の評価表の配布を行い保護者の方からの貴重な意見をいただいています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に1回の評価表、毎月の職員会議、毎朝の予定確認の場で職員間の意見交換を行っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	現在第三者評価を取り入れていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修は年に2回以上、社外研修も積極的に受けられるように機会を設けています。	
適切*	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		6か月に1回の更新の際に必ずモニタリング評価を行っています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		保護者面談でニーズを把握し、職員会議で計画の立案をしたあとに個別支援計画を作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		全児童の個別支援計画書原案を作成し、全職員が了承したうえで保護者の方から了承をもらい、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		年齢や特性に合わせて様々なスケールを使用しています。遠城寺式、デンバー式を使用する機会が多いです。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画書に区分を記載して計画を立案しています。	

な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		1か月の活動予定を職員会議で話し合ったうえで計画しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		1か月の活動予定を制作する際に、曜日や週間で活動内容が固定化されないように様々な活動を取り入れています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		1日で個別療育と集団療育どちらも参加できるように活動を設定していますが、体調などによって集団療育に参加できない場合は職員とマンツーマンで個別の取り組みをすることも可能です。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝の児童さんが通所してくる前の時間にその日の活動内容を確認し、進め方役割などを把握するようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日行った活動内容を振り返り、次の活動へつなげられるように話し合いを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		連絡帳と連携して個別記録に毎回の活動内容を記録、保管をしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6か月に1回個別支援計画の更新にあわせてモニタリングを行っています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必要に応じて支援者会議などに参加し情報共有をしています。開催の場合には保護者の方の了承を得たうえで会議を開催しています。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		各児童さんの関係機関の方々と連携して情報共有をし支援体制を整えています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用や移行に向けて各施設と連携しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学先から問い合わせがあった場合には必要な情報を共有し、スムーズな就学につなげていきます。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	—	—		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	—	—		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	—	—		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		年に1回地域の児童発達支援センターの担当の方に訪問していただき、直近での地域の状況を確認したり、きららの現状をお伝えし助言を受ける機会を設けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		園開放をしている近くの園にきららの児童と参加し園で遊ばせてもらう活動を夏に実施しました。今後も園側が可能であれば活動する機会を設ける予定です。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に保護者の方とやり取りをしたり、連絡帳や公式ラインを通して保護者の方とやり取りする場を設けています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者向けの研修の機会を今年は春に予定しています。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約の際に重要事項説明書をもとに説明をしています。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者面談を踏まえて保護者の方のニーズに合わせた計画を立案しています。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		作成した個別支援計画書は保護者の方に了承を得てから計画の実施をしています。		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご家庭からの要望に合わせて、作業療法士や言語聴覚士など専門の職員が同席し面談を行えるようにしています。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		感染症が落ちつき、保護者向けの研修を春に開催予定です。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			必要に応じて作業療法士や言語聴覚士などの専門職員が同席のうえで面談ができるように説明し、面談を行えるようにしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			日々の活動の様子を公式ラインを通して写真や動画で発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			写真や動画の取り扱いに関しては各ご家庭に同意書を記入のうえ使用にあっています。書類に関しては鍵付きの棚で保管期間に合わせて保管をしています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			連絡帳や公式ラインを通して情報共有や連絡ができるようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		きららの行事に地域の方を招待するまでには至っていません。個人情報や安全面の観点から今後の実施には慎重に検討していきます。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			各種マニュアルを設定しており、特に災害時のマニュアルは各ご家庭に災害時の対応を配布しています。児童向けの避難訓練、職員向けの避難訓練を定期的に開催しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			BCPを策定毎年見直しをおこない、非常災害時の対応の確認を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			服薬や持病の有無を確認し、看護職員が対応できるようにしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			アレルギーの有無を事前に確認し、おやつやクッキングの際の対応をご家庭と確認しています。エビペンの使用に関しては看護師が対応します。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			安全マニュアルをもとに支援にあたっています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			安全マニュアルをもとに支援にあたり、ご家庭からの意見をもとに支援の見直しを行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	6			ヒヤリハット発生時には書類を作成し職員会議で見直しを行っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			年に1回職員研修として虐待防止、身体拘束に関する研修を全職員が受講しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			年に1回職員研修として虐待防止、身体拘束に関する研修を全職員が受講しています。必要時にクールダウンとして個室を利用する際には職員同室のもと、保護者の方から了承を得られた場合に個室で過ごしてもらっています。	